

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成29年度第15回（定例会）

署名人 比嘉 佳代

委員長 神村 洋子

開催日時 平成29年11月21日（火）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時00分

開催場所 那覇市役所11階 1101A・B会議室

出席委員 神村洋子委員長、饒波正博委員、比嘉佳代委員、本仲範男委員、渡慶次克彦教育長

議事日程

- 1 報告1 平成29年度那覇市社会教育功劳者等の表彰について 【生涯学習課】
- 2 報告2 平成29年度教育行政マネジメントシステムに係る中間評価の結果について 【総務課】

出席職員

【生涯学習部】山内健副部長

（総務課）仲程直毅課長、森田勝副参事、奥浜隼人主査、加藤和歌子主査

（生涯学習課）砂川龍也課長、伊禮道子主査

【学校教育部】黒木義成部長、森田浩次副部長

会議録作成（総務課）幸地英子主査

神村委員長 平成29年度第15回教育委員会会議(定例会)を開催いたします。本日の会議録署名は、比嘉委員にお願いいたします。議題に入る前に、一つだけ訂正をお願いします。お手元にあります資料、第14回の教育委員会会議の日程中、議案第15号は議案第24号の間違いでございます。訂正をお願いします。

今日は議題が2つですので、会議終了後に先週の文部科学省と県とのタイアップの研修会の報告をお願いしたいと思います。

では報告1に入ります。報告1「平成29年度那覇市社会教育功労者等の表彰について」の説明をお願いいたします。はい、山内生涯学習部副部長、どうぞ。

山内副部長 平成29年度那覇市社会教育功労者等の表彰が決定しましたので、別紙のとおり報告いたします。平成29年11月21日提出。教育長 渡慶次 克彦。報告理由でございますが、那覇市社会教育功労者等の表彰要項第4条に基づき、平成29年度の被表彰者を決定したので報告いたします。詳細は生涯学習課で説明いたします。

神村委員長 はい、砂川課長、お願いいたします。

砂川課長 生涯学習課長の砂川でございます。報告理由等は山内副部長からご説明がありましたので、資料について説明いたします。資料の22ページをお開けください。よろしいでしょうか。那覇市社会教育功労者等の表彰要項でございますが、表彰の趣旨といたしまして、社会教育活動を通して、地域における社会教育の振興に貢献している個人及び団体に対しその功績をたたえて、那覇市教育委員会教育長名で表彰すると示されております。社会教育功労者等の表彰の決定につきましては、表彰要項第4条、表彰の決定がございしますが、那覇市社会教育委員の会議による意見を聞いて、教育長が行うと定めておりまして、去る10月27日(金)に開催した平成29年度第2回那覇市社会教育委員の会議で議決しております。推薦のあった個人・団体について、その後了承を得て、11月9日(木)教育長の決裁により決定に至っております。次に平成29年度の受賞者の人数でございますが、社会教育功労者一般の部で22名、青年の部で1名、計23名です。社会教育団体については7団体となっております。資料の1ページに戻らせていただきます。1ページから2ページにおきましては、社会教育功労者等の表彰一覧となっております。3ページ目以降16ページまでが推薦機関からの推薦理由などを記載しております。飛びまして15ページになりますが、社会教育功労者等の優良団体のことで16ページ以降19ページまでが、その団体に対する推薦理由となっております。20ページに参考資料として、これまでの受賞者・団体数が載っていますのでご確認ください。昨年度、28年度までの合計の被表彰者数につきましては、個人が652名、団体が323団体でございます。各年度平均団体が個人21名の、団体数は約10団体となっております。続いて21ページ目の参考資料としましては、今年度の推薦状況に詳細を載せております。今回の表彰に関しましては、来年、1月13日(土)に行われます第11回なは教育の日の式典で表彰を予定

しております。簡単でありますが報告は以上となっております。

神村委員長　ただ今、報告がありました。何かご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。
はい、渡慶次教育長、どうぞ。

渡慶次教育長　確認ですが、21ページのNo.22の那覇市立開南小学校校長　運天　京子とありますが、校長先生は運天　京子さんですか。

神村委員長　平田　真知子さんではないですか。

渡慶次教育長　黒木部長、ご存じないですか。

黒木部長　天妃小に運天校長がいらっしゃいます。

渡慶次教育長　天妃小の校長先生ですか。

神村委員長　天妃小は運天　克子さんですね。

伊禮主査　訂正します。平田真知子さんです。

神村委員長　これは、開南小学校を表彰するということですか。

伊禮主査　開南小学校から推薦がありました。

渡慶次教育長　休憩をお願いします。

神村委員長　休憩します。

～ 休憩 ～

～ 再開 ～

神村委員長　はい、ほかにご意見がありましたらお願いいたします。はい、饒波委員、どうぞ。

饒波委員　21ページに推薦の状況が書いてありますけれども、推薦された方は特段、その規定に反しない限りは、そのまま通るということですか。

砂川課長　そうです。

神村委員長　ほかにありますか。今年は団体が7で、それから個人も21名と少し少なめですけれども、先程の説明を受けた時に個人の3人がその規定に合わなかったということで、どういう規定で漏れたのかと伺いました。その辺をちょっと説明していただけますか。

伊禮主査　個人の部で25名の推薦がありましたけれども、3名の方について、活動年数が5年以上を満たしていない方がお一人と、後は、過去に平成12年と平成6年に表彰を受けた方がお二人おまして、この方々は推薦の対象から外れております。

神村委員長　それから後1件。組織の中から推薦が出来る場所にいる人、活動している人は良いのですが、組織の中に入っていないくて、本当に地道に活動をしている人も那覇市にはいっぱいいると思うんですね。ボランティアしないにしても、そういう人達へのこういう場を与えるチャンスというのは、どういう方法でアタックできますか。応募できますか、という感じでお聞きしましたし、どれくらいの組織の中に公文を出しているか、ということについても聞きましたので、この辺のことについて説明をお願いします。

砂川課長　お答えいたします。今回、表彰の推薦の依頼先としまして、外部団体としましては

社会教育関係団体が那覇青年会議所、那覇商工会議所等ですね。後、自治会等を含めて178件、また内部としましては、社会教育関係に対して33件、あとは小学校・中学校の校長先生に対しての依頼です。合計で264件の関係団体に対して推薦依頼をかけております。また、その通知等が届かない所に関しましては、那覇市のホームページでも募集をかけていますので、そちらも確認いただければと考えております。

神村委員長 よろしいですか。はい、本仲委員、どうぞ。

本仲委員 いろんなところに働きかけているというのは、今、わかりました。学校関係の中で校長だけなのか、PTAの会長さんには充てているのかどうか。校長だけに公文があつて校長が忘れてしまうと、そのまま流れてしまうので、PTA、各学校には単位PTAがありますので、事務局に送ってくれたらもっと広がるんじゃないかなと思うんだけど、送っていますか。

伊禮主査 各学校の単位PTAには送っていないです。

本仲委員 PTAの方達は、かなり地域から来る人達で地域でも活躍している人達も多いので、やっぱりPTA会長宛てにも、学校長だけじゃなくて。赴任してきたばかりの校長はあまり知らないですからね。だからむしろ、PTA関係のほうがかつと広がるんじゃないかなと思いますね。

砂川課長 今後、次年度以降は改善をして対応をしたいと思います。

神村委員長 あと1ヶ所ですが、これから地域コミュニティーを作っていくという那覇の市政の中で、地域コミュニティー関係の所の方の調整・連絡も、やはり必要になるということで、この辺を申し上げましたけれども、そういうところをもつとね。はい、どうぞ。

比嘉委員 ホームページでも広報しているというのを、今、お聞きしましたけれども、ホームページから見て応募というのは、過去にありましたか。

砂川課長 ないですね。

比嘉委員 ではもっと広報の方法を変えとか、検討される予定はありますか。

砂川課長 広報を出すというのは、直接送付した方達以外で、通知が漏れた方々が、見ていただければという考えがありますが、やはり直接的な通知というのが一番反応がありますので、やはり今、お話があつたようにPTAであつたり、直接的に推薦をいただけるような団体等を我々のほうで再度見直したほうが確実に推薦が上がってくるのかなと思っております。

神村委員長 ただ、人の目でしか出来ない。つまり組織に入っていないくて、人の目でしか確認が出来ていない活動をどのように拾い上げるかなというのは、一つ難しいし、これから後、大事かなということを感じますね。はい、ほかに。よろしいですか。よろしいでしょうか。はい、では、他にご意見がありませんので、報告1「平成29年度那覇市社会教育功労者等の表彰について」は、この辺で終了いたします。

続きまして、報告2「平成29年度教育行政マネジメントシステムに係る中間評価

の結果について」の説明をお願いいたします。山内生涯学習部副部長、お願いいたします。

山内副部長 報告2「平成29年度教育行政マネジメントシステムに係る中間評価の結果について」、別紙のとおり報告します。平成29年11月21日提出。教育長 渡慶次 克彦。報告理由でございます。平成29年度教育行政マネジメントシステムに係る中間評価の結果について、那覇市教育行政マネジメントシステム要綱第6条の規定に基づき、その結果を報告いたします。詳細は担当課から説明をいたします。

神村委員長 はい、では仲程総務課長、お願いいたします。

仲程課長 はい。平成29年度につきましては、33件の事務事業についてマネジメント対象事業としております。33件の内訳でございますけれども、2ページをご覧ください。マネジメンが学校教育部の1件、部長マネジメンが生涯学習部4件、学校教育部4件の計8件です。課長マネジメンが生涯学習部10件、学校教育部14件の計24件、合計で33件の対象事業ということになります。今回、中間評価結果ということになりますけれども、その前にマネジメントシステムの流れを簡単にご説明します。4ページをご覧ください。年間スケジュールがございますけれども、まず年度当初に当該年度におけるマネジメント事務事業を決定しまして、年度目標等を設定します。これはこの表の左側、①～⑤までの作業になります。次に年度途中で事業の進捗状況の確認、これは9月までの上半期の確認でございますけれども、これを中間評価として10月に行います。これは表の⑥～⑦になります。それから今回の中間評価の教育委員会報告が⑧ということになります。最終的には、年間評価は1月に行いまして、3月に教育委員会会議に報告し、ホームページにて公表をするという手順になっております。今日は10月中間評価が終了しましたので、その評価状況をこの場で報告をしまして、ご意見等を伺いたいと考えております。では1ページをお開きください。マネジメント事務事業の進捗状況ということで、真ん中あたり、表1、平成29年度マネジメント進捗状況がございます。33件の事務事業の内、予定以上というのが1件、予定どおりが27件、遅れ気味というのが4件、大幅な遅れというのが1件となっております。次にその下の表2、進捗状況の区分ですが、予定以上というのが当初予定よりも早く進捗している事務、または予定以上に成果が表れている事業。遅れ気味というのは、予定より遅れているが今後その遅れは取り戻せる見通しである事業。大幅な遅れというのは、予定より大幅に遅れており、年度目標の達成は相当難しいという事業ということで区分をしております。続きまして、3ページをご覧ください。進捗状況のいわゆる中間評価の集計表でございますけれども、マネジメント区分ごとに、事務事業名・進捗状況・主管課ということで記載をしております。教育長マネジメン、部長マネジメンの進捗状況と、それから進捗状況の真ん中あたり

に遅れ気味ということ、大幅な遅れが1件、それから予定以上が今回1件ございましたので、その件についても説明をしたいと思います。説明は、奥浜主査から行います。

神村委員長 はい、お願いします。

奥浜主査 では5ページをお願いします。5ページが教育長マネジメント一覧表となっております。5ページが1件ございます。小中一貫教育の推進として進捗状況は予定どおりとなっております。備考欄をご覧ください。下半期の予定事項としましては、各中学校グループの研修会等の支援を継続的に行うとともに、コーディネーター研修会等を通して、コーディネーターの更なる資質向上を図る。さらに、各中学校グループの成果、課題を検証しまして、次年度計画の作成を支援します。また、小中一貫教育講演会を12月に実施しまして、小中一貫教育の理解を深めるという予定でございます。では6ページをお願いします。6ページが生涯学習部長マネジメント一覧表となっております。4件ございます。まずNo.1、第2次那覇市生涯学習推進計画の策定ということで、こちらは進捗状況が遅れ気味となっております。備考欄にあります。遅れ気味の理由ということで、生涯学習関係団体の意見聴取を2回予定しておりましたが、1回しか出来なかったということで遅れ気味という評価になっております。下半期の予定事項としましては、内容検討委員会で指標設定、内容を協議し、素案を完成させる。生涯学習関係団体等から意見聴取を行い、素案への反映に努める。生涯学習推進協議会、推進幹事会への素案提示を予定しております。No.2、真和志南地区生き生き人材育成支援施設(仮称)整備事業です。進捗状況は予定どおりでございます。下半期の予定事項としまして、不動産鑑定評価業務の結果及び税控除の適用を確認しまして、地権者との用地交渉、契約、法務局にて所有権の移転登記の申請を予定しております。7ページをお願いします。7ページのNo.3、那覇市健康ウォーキング推進事業です。進捗状況は予定どおりとなっております。下半期の予定事項としまして、11月12日に開催しましたので、大会終了後のコースの見直しや新たな企画等の検討を進めるとなっております。No.4、学校校舎等の改築及び耐震改修です。進捗状況は予定どおりです。下半期の予定事項としましては、中長期計画については年度末(2月頃)までに県とも調整を行い、計画実現に向けて進めて行くとなっております。8ページをお願いします。8ページ、9ページは、学校教育部長マネジメント一覧表で4件ございます。まず8ページのNo.1、防災・減災教育等の推進です。進捗状況は遅れ気味となっております。遅れ気味の理由としましては、この年度目標の④を見ていただきたいのですが、④災害時の避難所運営における教育委員会と学校の連絡体制を確立し、マニュアルの周知を行うとなっております。④の避難所運営体制等のマニュアルについては、学校教育部だけでは作成することは出来ないということがございまして、市民防災室との調整が必要になります。この調整に時間を要しているということがありまして、遅れ気味という評価となっております。下半期の予定事項としましては、避難所運営体制

及びマニュアルに関しては市民防災室と連携して作成をします。災害時連絡体制のことも政策課との連携部分について見直しを図ります。各学校の学校安全計画及び危機管理マニュアルの見直しを周知し、改善点に関して指導助言をするとなっております。

No.2、問題行動に関する行動連携推進。進捗状況は予定どおりでございます。下半期の予定事項としましては、下半期の研修会についても、各関係機関と連携しながら推進して行く予定です。また、いじめ重大事態、不登校生徒への対応や問題行動が頻発している学校を訪問し、学校を支援できる体制づくりに努めるとなっております。9ページのNo.3、子どもの貧困対策の取り組みです。進捗状況は予定どおりでございます。下半期の予定事項と課題としましては、上半期同様、学校等の関係機関と連携して貧困家庭にある児童生徒への支援を実施する。業務に必要な研修の継続の実施。課題としましては、支援員17名に対する助言、指導を行うコーディネーターが1名しか確保されていないことから、支援員をフォローする体制に不備があるということでございます。No.4、初任者・10年経験者・その他研修事業です。進捗状況は予定どおりです。下半期の予定事項としましては、初任者研修は各教科等に係るグループ研究、代表授業、授業研究会の実施、識名園、特別支援学校の視察、閉講式の実施でございます。教職員10年経験者研修については、指導主事参加の授業公開、授業研究会の実施、特定課題研究報告書のまとめ、報告会、閉講式の実施を予定しております。では10ページをお願いします。10ページ以降は、課長マネジメント一覧表となっておりますして24件ございます。その中から遅れ気味を中心に説明をしていきます。

10ページのNo.3、繁多川・若狭公民館の指定管理者の選定です。今年度で指定管理者の期間が切れるということで、指定管理者の選定作業ですが、進捗状況が遅れ気味となっております。遅れ気味の理由としましては、両公民館の公募に対して、現在の指定管理者から応募書類の提出はありましたが、指定管理料の上限額を超えた収支予算書となっていたため失格となりまして、プロポーザルが出来なかったということでございます。下半期の予定事項としましては、関係各課と調整のうえ、12月補正を要求しております。12月議会終了後、局議、庁議を経て、1月中旬までの約3週間を目途に再公募を行う予定です。応募の状況を見ながら1月末にプロポーザルの審査選定、2月議会で承認を経て、3月末までに協定書を締結する予定となります。課題としましては、公募から協定締結まで日数に余裕がないため、取りこぼしが無いよう関係各課との密接な調整が必要です。また、再公募で応募がなかった場合は、直営となるため、職員の人員配置が必要となります。12ページをお願いいたします。

12ページのNo.7、那覇市スポーツ推進計画策定事業です。進捗状況が大幅な遅れとなっております。大幅な遅れの理由としまして、平成29年3月に国の第2期スポーツ基本計画が策定されました。市の計画についても、国のスポーツ基本計画との整合性を図るための方向性の確認に時間を要しているということでございます。下半期の

予定事項としましては、国の第2次スポーツ基本計画のうち、市の計画に取り込むべき事項を整理するため、市民やスポーツ関係団体の意識調査など基本的データの収集・整理を進めるということでございます。14ページをお願いします。14ページのNo.11です。児童生徒の学力向上の取り組みということで、進捗状況は予定どおりであります、1件修正がございました。備考欄の下半期の予定事項④確かな学力の向上について、教育課程連絡協議会との連携となっておりますが、教育課程連絡協議会ではなくて、教育課程研究協議会と修正をお願いいたします。連絡協議会から研究協議会へ修正です。それでは15ページをお願いします。15ページのNo.15、校務支援システムの導入です。進捗状況は遅れ気味となっております。遅れ気味の理由としましては、業者によるプレゼンテーションの実施ということで、業者によって取り扱っているシステムが違いますので説明をしていただくということ予定しておりましたが、関係課との調整が予定より遅れているということで遅れ気味となっております。下半期の予定事項としましては、8月に実施予定であったプレゼンテーションを今月実施予定です。小中学校の教職員及び関係課職員と校務支援システムについて情報を共有し、学校での必要性、課題を把握し、システムの導入に向けて調整を図っております。それでは16ページをお願いします。16ページのNo.17です。学習支援員の取り組みです。進捗状況は予定以上となっております。予定以上の理由としましては、平成28年度上半期よりも、今年度の支援人数が増加し、学校訪問の成果が予想以上に表れているためということです。前年度の上半期の支援人数は50人でしたが今年度上半期は61人ということで、支援人数が増えております。こういったことから予定以上という評価になっております。下半期の予定事項としましては、下半期は支援員を4人体制にします。上半期は2人体制でしたが、4人体制ということで、2人増となっております。12月からは夜間ていんぼうを開設し、高校受検の強化を図るということで、予定をしております。説明は以上です。よろしくお願いします。

神村委員長　　今の説明に関しまして、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。はい、饒波委員、どうぞ。

饒波委員　　15ページのNo.15、校務支援システムですけど、これは校務支援システムを導入することは、もう決定されるということでよろしいでしょうか。

奥浜主査　　実は、実施計画というのがありまして、3ヶ年計画の予算要求ですが、先月、査定結果の報告がございまして、査定の結果としましては、平成31年7月までは既存のシステムを活用するということで、新システムの導入は認められておりません。

饒波委員　　そうすると、業者には予定ということで、プレゼンテーションしてもらおうということですか。

奥浜主査　　そうです。業者のプレゼンテーションについては予算と関係なく実施できますので、まずは業者の説明をしてもらって、方向性というか、こういったシステムがあるとい

うのを把握してから準備を進めてまいります。

神村委員長 はい、森田副部長どうぞ。

森田副部長 今、教育研究所で運営しているネットワークシステムの切り替えが平成31年7月予定となっております、それに合わせてこの校務支援システムの構築が出来ないかということで進めているようです。それで今年度、プレゼンテーションをしますが、この平成31年の8月から、どういうシステムにするかという意見を取りながら選定をしていこうということで、その準備をすることになります。

神村委員長 はい、渡慶次教育長、どうぞ。

渡慶次教育長 平成31年の7月からという話ですよね。実施計画、例えば今年度の実施計画では平成29年、30年、31年ですが、31年度の予算は付いていますか。

平成30年、31年、32年までの中で、約束しているんだから、約束している以上、平成31年の予算に実施計画として付いていないと、約束したことにはならないですよね。それがないとちょっと。

山内副部長 休憩をお願いします。

神村委員長 休憩いたします。

～ 休憩 ～

～ 再開 ～

神村委員長 再開します。渡慶次教育長、今の確認のことで。

渡慶次教育長 平成31年の7月からということは、実施計画の3ヶ年計画の中で、平成30、31年、32年の中で、平成31年度の予算は付いていますか。

神村委員長 はい、どうぞ。

奥浜主査 はい、平成31年、32年度予算は付いております。

神村委員長 ほかにございますか。はい、本仲委員、どうぞ。

本仲委員 6ページの第2次那覇市生涯学習推進計画策定について、遅れ気味ということですが、2回予定したけれども1回しか出来なかったのは、何の理由で1回しか出来なかったのかなということを知りたいということと、続けて良いですか。7ページ的那覇市健康ウォーキング推進事業について、市民のウォーキングの勧めと、健康意識の高揚を図るということで、非常に効果的だなと僕はいつも思っていますけれども、去年から42.195Kmのコースが出来ていますよね。その参加者数が結構いるのかどうか、それから完歩率、結構長い距離なので、気になるなということがありましてね。これが一点。それから9ページ、子どもの貧困対策の取り組みについてですけれども、課題の中でコーディネーターが1名しか確保されていないことから、支援員をフォローする体制に不備があるということがあるわけですが、これが次年度、生かされていくのかどうか、これももっと聞きたいなと思います。この3点をお聞きしたいと思います。

神村委員長 3点ですね。よろしくお願いします。

奥浜主査 まず6ページの第2次那覇市生涯学習推進計画の策定です。意見聴取2回予定したが1回しか出来なかったということですが、準備不足という部分がありまして予定どおり出来ず、1回しか出来なかったということでございます。次に7ページの健康ウォーキング推進事業です。42Kmコースということで、島尻まーいです。合計200名の参加者数があったようです。当日申し込みは67名です。

神村委員長 完歩率というのは、わかりますか。

奥浜主査 完歩率までは、把握できておりません。

山内副部長 島尻まーいだけではなくて、全部そうなんですけれども、それは掌握していないですね。なかなか難しいところがありまして。

渡慶次教育長 少し補足です。一応、私も現場で立ち会っていますので、完歩率については、やはり途中で抜ける方もいらっしゃいます。NAHAマラソンのようにスタートとゴールでタグでカウントする訳でないので完歩率はわかりませんが、42Kmのコースは7時にスタートします。早い人で走ってくる方は12時前後には、もう帰ってくるんですけれども、1人、お母さんと小学校4年生が5時半にゴールしたんですよ。お母さんも偉いんですけれども、小学校4年生も完歩して帰って来て、一番の最後尾でゴールしたのが、6時半位ですかね。7時にスタートして、ですから200名、去年もだいたいそれ位でしたかね。

本仲委員 200名といたら、多いんじゃないですか。

神村委員長 はい、山内副部長、どうぞ。

山内副部長 参考までに、去年は島尻まーいで246名です。全体で去年が3,906名の参加者。今年は3,949名です。

神村委員長 はい、渡慶次教育長、どうぞ。

渡慶次教育長 当日申し込みが結構多かったんです。天気を見て参加する人もいましてね。

神村委員長 はい、黒木学校教育部長、どうぞ。

黒木部長 子どもの貧困対策の取り組みの支援員、コーディネーターが1名ということで、今年度は実計で要求しましたが、今回は認められておりませんので、次年度は現体制を維持させるということで、進めて行くということで確認されています。以上です。

神村委員長 ほかにございませんか。私のほうから良いですか。8ページのNo.1、防災・減災教育等の推進ですけれども、学校が避難所になっている所が多いですよ。そうすると災害が起こった場合に、現実問題として、学校の職員は子どもをまず安全な所に避難させる、地域からも来ると、その後の体制についての避難所運営と、その後の体制についての勉強ですか。そうすると、これは学校が主になるということはありませんよね。先生方が主になるということですか。その辺はどうですか。

仲程課長 那覇市の防災計画の、いわゆる基本的な形の中では、避難所を開設した後で、避難

がしばらく続くという状況がありますけれども、基本的に那覇市で、役所の職員も含めて対応するというので、先生方がその避難者に対して直接対応していくという仕組みではありません。基本的には行政側でしていくという形です。

神村委員長　例えば、今までの他府県の事例として、高等学校の校長先生が、ずっと運営に関わったと報道もありましたよね。その高等学校が避難所になって切り盛りをしてきたと、そうすると管理職の負う責任と言いますか、仕事の量と言いますかね、もちろん、この高校は授業も出来なかったわけですから、そういう教育課程のものではなくて、本当にみんなを預かっていたという現実だろうと思いますけれども、そういう事ではなくて、避難して、継続してこの避難生活をするという所の方法を考えれば良いですか。一時避難とかではなくて。

森田副部長　学校長がその避難所の開設にあたるのは、その緊急避難の一時的な対応がメインになります。その後は学校としては、授業の再開だったり、子ども達のケアであったり、そういった業務があるので実質的には本当は地域の方々とか、その力を借りながら運営をしていく必要があると思いますが、そのマニュアルがまだ整備されていないくて、これを今後、市民防災室と調整をしていきたいと考えております。

神村委員長　マニュアルがまだなんですね。そうすると現場ではそういうのは、まだやったことがないんですね。

森田副部長　地震が起こったよとか言う時には、避難をして子ども達を引き渡すという、そういう伝達訓練まではされていますが、その後、実際長期にわたる避難所等の運営という、そのマニュアルがまだ整備されておりませんので、今後、詰めていきたいと思います。

神村委員長　そうすると、これからすると、結局、学校中心にしたコミュニティというのを作っておかないと、行政の力だけでは絶対出来ないし、学校の力だけでも出来ないの、このコミュニティの大切さというのは、何か、学校支援とかじゃなくて、この人命的な、この災害の時の大きな力になるということ、この辺をやっぱり中心にコミュニティを作る時には大事なことも知れないですね。はい、本仲委員、どうぞ。

本仲委員　東日本大震災でありましたよね。その時に仙台市の、仙台駅にすぐ近くにある校長が報告していましたけれども、その時にやはり学校の校長が中心になって動いていたそうです。そしてこの校長は、私は1週間お家に帰れなかったと、何故帰れなかったかという、この仙台市の駅の近くの学校ですので、電車が止まっているわけですよね。そこに約3,000名いたそうです。学校の中にある備蓄は、1,000人分の食料しか備蓄がなかったということで、どうしようと、決断をせまられてね、非常に悩んだらしい。結局どうしたかという、この1,000人分の食料は出さなかったと、どうしてかという、パニックになるからということだね。これも校長が判断したらしいです。だから今、神村委員長がおっしゃるように、この地域コミュニティというものを、この災害対策を練って、ある程度マニュアル化をしないと、学校の校長がかなりいろ

いろ問題点の矢表に立たされて、大変、苦勞するなというような報告がたくさんありました。そしてマニュアルは学校では作っているんだけど、一切、役に立たなかったと、何故かと言うと、もう情報なんかも全部切断されているわけですから、そこで役に立ったのは何かというと、張り紙だったらしいです。だから原始的な方法が一番役に立ったということが印象でした。

神村委員長 はい、渡慶次教育長、どうぞ。

渡慶次教育長 直接、担当したことがないので、うろ覚え何ですけど、地域防災組織というのを作るとい話が一時期ありましたよね。地域防災組織を作った所に対して、補助金をあげるとかということで、一時期、その話を聞いたことがあるんですけど、それから、なかなかこう広がらなくて、あくまでも基本的には、この地域の人達が集まって組織を作って、防災を見るということが基本で、全部、行政が、学校が、ということではないと、というようなことを前に聞いたことがあるんですけど。

比嘉委員 今、福祉政策課では、一次避難の次は二次避難を、各高齢者施設や障がい者施設と契約をして、そこに一次から二次に振り分けるという契約を、今、全部進めています。ただ、その職員にも家族がいるので、その職員の家族はどうするかというのが、今、課題になっていて、高齢者とか、障がい者は、その二次に移行できるような調査をしながら契約をしています。

神村委員長 この辺の横のデータはいろいろとあるわけですね。わかりました。ただ、学校長もそういうふうにいる所を、少し、学校経営のほかにこういうところは、また力を付けていかなければいけない部分なのかなと、今後はね。ありますね。はい、わかりました。ほかにございますか。よろしいでしょうか。良いですか。はい、饒波委員、どうぞ。

饒波委員 10ページの繁多川・若狭公民館の件で、これは見込みとしてはどうなってますでしょうか。

山内副部長 予算要求をして、財政課からの内示では、私どもからするとある程度、要求どおり認められているのではないかなと思います。ただ、団体にとっては、もう少し上を望んでいる所があるものですから、これはまだ予算がはっきり決まっていない内示の段階で、議会を経て初めて決まりますので、具体的な交渉はしていないのですが、向こうが思っているよりは少し下かなと。金額的にはですね。

饒波委員 最初の提示よりは。

山内副部長 上げています。ただ、2団体ございまして、2団体から見積もりを取って、予算要求しましたけれども、こちらは行政の立場上、見積書の低い方で予算要求するというのが当然になっていますので、それで予算要求いたしまして、これでほぼ見積書どおり、A、B、ありますけれども、Bが低かったので、Bの見積書のほうで、ほぼその金額で内示が出ています。ですから、BにとってはOKかなという気がしますけれど

も、Aにとっては少し厳しいなど。しかし、行政としてはこのような予算要求しか出来ないものですから、これから予算が通りましたら、また、団体と交渉していくというふうに考えています。

神村委員長 ほかにありますか。よろしいでしょうか。はい、では、ほかに、ご意見がありませんので、報告2「平成29年度教育行政マネジメントシステムに係る中間評価の結果について」は、この辺で終了いたします。お疲れ様でした。

これで平成29年度第15回教育委員会会議(定例会)を終了いたします。